

1 単元名「見つけたよ、いきもののひみつ」

2 単元の目標

- ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、かぎ（「」）の使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。
〔知識及び技能〕（1）ウ
- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B（1）ア
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として「6年生に生き物のひみつを知らせるために、観察記録文を作成する活動」を位置付けた。身の回りにいる生き物から対象を決め、様子や動き、思ったことなどをメモし、観察記録文を書く。観察記録文の中には校外学習で見つけた「自分だけのひみつ」を書き足し、発表する。「紹介や説明、報告などを伝えたり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動」という言語活動も取り入れ、文章の内容や表現の良さを見つけさせる。

これらの特徴から、この言語活動を位置づけた学習活動を展開することで、「調べたり観察したりして、伝えたいことを明確にして書くこと」につなげることができる。

4 単元について

（1）教材観

本単元は、観察記録文を書くことにより、自分が見つけた生き物の秘密を伝えたいという児童の気持ちを大切にして、学習を進めていく。生き物の観察記録文は生活科で行っている。ここでは生き物ならではの動きに着目し、メモを作成する。メモを書く際にはジャムボードを活用し、「水色→うごき」「黄色→ようす」「ピンク→おもったこと」などの項目ごとに色を変え、わかりやすくまとめる。短い文で書いたり、写真とメモを対応させるためにメモと写真を線でつないだりする活動などを取り入れ、楽しく学習を進めていく。

観察記録文には、観察した事実だけを記録するのではなく、自分の思ったこと（驚いたこと、かわいい・かっこいいことなど）も書き足し、秘密を見つけた時の児童の思いを大切にする。クラス全体で「ひみつ」を共有することで、自分が知らなかった「ひみつ」を知り、生き物への関心を高める。また、6年生に読んでもらい、「ひみつ」を知ってもらったり、自分の文章表現の良さを見つけたりすることで、充実感や達成感を味わうことができるようにする。

（2）児童の実態

本学級の児童は、自分の目で見たいものや体験したことを自分の言葉で表現することが好きな児童が多い。多くの児童が、色や形、大きさなどの視点に沿って、観察したことを書き表したり、自分の思いを書いたりすることができる。しかし、語彙が少ないため、自分の気持ちを表す時、「うれしい」「おもしろい」などの単調な表現になってしまうことがある。自分だけの生き物のひみつを表現する際に、「～なところが驚いた」「～の動きがかわいかった」など、具体的な言葉を使って思ったことを表現させられるようにしたい。

（3）指導観

第一次では、例文を読み、身の回りの生き物について調べて、観察記録文を書くことを捉える。6年生の児童に伝える活動の視点を提示することで、明確な目的意識をもって意欲的に取り組めるようにする。校外学習ではしおりにメモを取り、思い出しながらジャムボードにまとめるようにしておく。

第二次では、千葉市動物公園で見学した動物の中で、観察したことや調べたこと、見学したこと、見聞きしたことから伝えたい動物を決める。また、よく思い出しながら観察したい個所を分類しながらメモを書く。メモを書くときには、ジャムボードを活用し、「ようす」、「うごき」、「おもったこと」「ひみつ」などの項目ごとに色を変えて、短い文で書く。次に、メモを書いたことから伝えたいことを文章に書く。また、書き上げた文章を推敲する。「ようす」「うごき」だけを羅列するだけではなく、「ようす」「うごき」を見て「おもったこと」を書き、6年生に知ってもらいたい「ひみつ」を選択する。

第三次では、書いた文章を友達と読み合い、よいところを伝え合いながら、学習を振り返る。

○研究主題との関連について

本単元では、生活科と関連付けることで、身近な生き物について児童が主体的に観察をし、明確な目的意識をもって学習に臨めるようにする。また、ジャムボードを活用し、「ようす」、「う

ごき」という視点からメモを取ることができるようにしていく。

また、校外学習の前にどのような動物がいるか事前に確認しておく。あまり知られていない動物を伝えることで、その特徴をメモしやすくなると考える。その際に、動物の「ようす」「うごき」「おもったこと」などの観察する視点を与えることで、その部分に注目することができるようにする。

○他教科・領域等との関わりについて

生活科の「いきものとなかよし」の学習において、生き物の特徴について視点をもって観察する。「ようす」「うごき」「おもったこと」の三つからまとめるように指導することで、国語の活動と関連付けしやすくする。そして、グループ活動をすることにより、視点を友達と共有しながら、より詳しく観察できるようにする。さらに、完成した観察記録文を6年生に紹介することで意欲を高めていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1) ウ)	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B (ア))	① 積極的に経験したことから書くことを見付け、学習の見通しをもって文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画（8時間扱い）

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等
一次 (見いだす)	1	○身の回りの生き物について調べて、観察記録文を書くことを知る。 ・調べたい動物を校外学習で実際に見て、6年生へ観察記録で知らせるという学習の見通しが持てるようにする。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ＜発言・ノート＞
二次 (自分で取り組む)	2	○動物園や水族館にいる動物の中から調べたい生き物を決める。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ＜発言・ノート＞
	3	○本やタブレットを使い、生き物について調べ、メモをする。	〔思考・判断・表現〕① ＜タブレット（ジャムボード）＞
	4	・得た情報は常体で簡潔に書くよう指導する。 ・付箋の色を様子・動き・思ったことに変える。 ・本やタブレットからの情報は、写真や画像（動画）をもとに調べていく。 ・校外学習で実際に見て得た情報もメモに追加していく。	
(広げ深める)	5	○メモに書いたことから、伝えたいことを2、3個選び、文章を書く。 ・自分だけが発見したひみつは必ず観察記録に入れる。	〔知識・理解〕① ＜ワークシート・発言＞

並行学習

生活科

「いきものとなかよし」

	6 (本時)	○文章を読み返し、推敲する。 ・友達と文章を読み返し、直した方がいいところがないか、上手な表現はどこか考える。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ＜ノート・発言＞
	7	○推敲した文章をもとに清書し、観察記録文を完成させる。	〔思考・判断・表現〕① ＜ワークシート＞
三次 (まとめあげる)	8	○完成した観察記録を読み合い、良いところを伝える。 ・学習を振り返る。	〔主体的に学習に取り組む態度〕① ＜ワークシート・発言＞
事後	6年生に完成した観察記録文を読んでもらう。		児童の意欲向上につなげる。

並行学習
生活科「いきものとなかよし」

7 本時の指導 (6/8)

(1) 本時の目標

- ・より良い観察記録文になるように、読み手に伝わりやすいポイントを意識して文章を書こうとする。

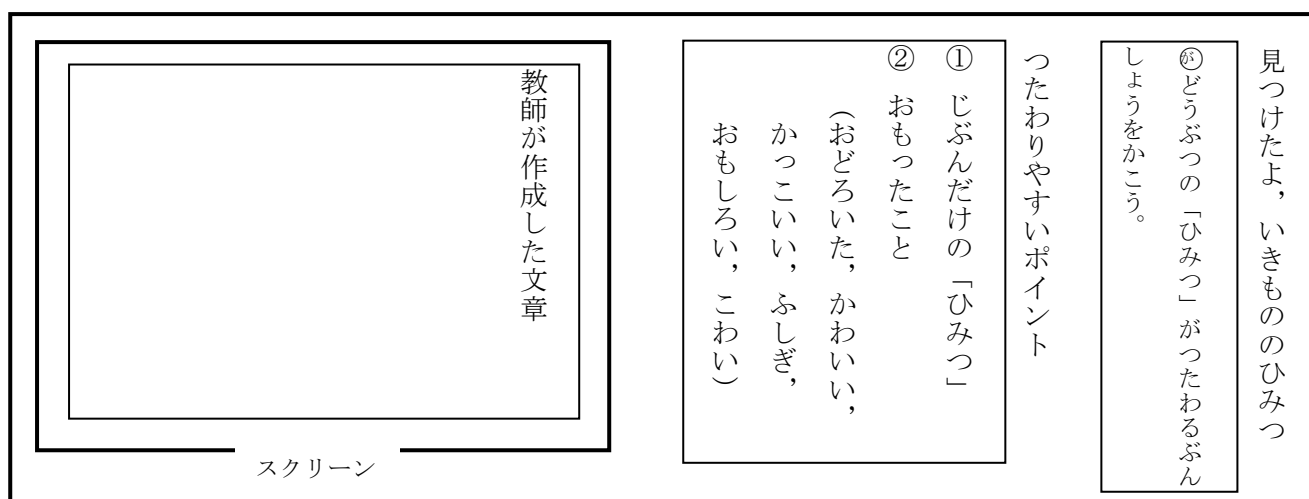
〔学びに向かう力、人間性等〕

(2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◇)	備考
導入 (見いだす) 5分	1 本時の課題をつかむ。	○前時に作成した選んだ生き物についての文章を見直すことを知る。	
	◎どうぶつの「ひみつ」が伝わる文章を書こう。		
展開 (自分で取り組む) 5分	2 読み手に伝わりやすいポイントを確認する。 ① 自分だけの「ひみつ」が入っているか。 ② 自分の思ったことが書かれているか。	○「ひみつ」とは、「みんながしらなかったこと」「なるほど」と思うような情報であることを確認する。 ○教師が作成した文章を読むことで、間違いやもっとよくできることを見つけ、自分の文章を修正する際に役立てられるようにする。	
(広げ深める) 10分	3 グループの友達が書いた文章を読み、良いところを見つけ、伝える。 ・良いところに青線を引く。(1か所)	○自分だけの「ひみつ」が書かれているか確認するよう指導する。	作文帳 ジャムボード
20分	4 グループの友達が書いた文章を読み、改善点を見つけ、伝える。 ・改善点に赤線を引く。(1か所)		
	5 グループで話し合ったことをもとに、自分で書いた文章を修正する。 ・前時に書いた文章に、赤で修正する。	○ポイントを活用し、読み手に伝わりやすい文章になるよう指導する。 ○赤線を引いたところの理由を述べることで、修正する際の参考にするよう伝える。	

		○修正が難しい児童には、ジャムボードを活用し、他に適したメモがないか考えさせ、文章をよりよくできるよう支援する。 ◇より良い観察記録文になるように、読み手に伝わりやすいポイントを意識して文章を書こうとしたか。 〔主体的に学習に取り組む態度〕	
	6 アドバイスを基に修正した文章を発表する。 ・クイズを出し、画像で確認する。	○代表児童の修正した文章をスクリーンに投影し、どのように修正したか発表させる。 ○クイズをすることによって、自分だけの「ひみつ」が書かれているか確認させる。	
まとめ (まとめあげる) 5分	7 本時の学習を振り返る。	○一番伝えたい「ひみつ」や自分の思ったことを書くことで、読み手に伝わりやすい文章になったことを伝える。 ○修正したものを基に、次時に文章を清書することを伝える。	振り返りシート

(3) 板書計画 (ICT 機器活用も含む)



((4) 評価)

- A 友達に助言したり、一番伝えたいことを明確にしてより分かりやすく文章を書いたりしている。
- B 推敲したことを基に、一番伝えたいことを明確にして文章を書いている。
- C 推敲したことを基に、文章を書いている。